

密着／クラフトデザイナーの素顔

②

### こだわりゴルフクラブ



### 工房を訪ねる



カリフォルニア州サンマルコス郊外にある「ウィットラムゴルフ」は、入り口に小さな看板がひとつ掲げられているだけの普通のオフィスだった。しかしドアを開けて中に入ると、そこは完全な手造りバッテリー工房であった。

「ウィットラムゴルフ」の本社。ここから遠のこめられたバッテリーの本拠地だといく。

## 父の修理でプロフェッショナル作りで興味

た。決して広いとはいえない工房内には、工程ごとにバッテリーのパーツと未完成品、完成品が整然と並べてあった。

そこでわれわれ取材班はシャバンゴルフフェア以来、1週間ぶりにウィットラムに再会した。「少し待ってください」。彼の最初の言葉だった。ウィットラムはプロ用のバッテリーの最終調整を行っていたからだ。

「お待ちしました。どうぞこちらへ」とウィットラムがわれわれの方に歩み寄ったのは、それから30分後だった。「途中で作業を中断すると正確なスペ

ック調整ができなくなってしまうのです。神経を使う作業なんです」と物静かに微笑を浮かべわれわれの前に座った。

まず、ゴルフとの出会い、バッテリー職人になったきっかけを聞いてみることにした。

バッテリーづくりに集中するウィットラム氏



8歳の誕生日に、父親からクラブをプレゼントされたのが、すべての始まりだった。「父とゴルフをするのがとても楽しかったことを覚えています。一時はプロゴルファーを目指して練習に力を入れたこともありま

す」とウィットラムは語り出した。しかし「私の父は自動車の整備士でした。その影響で私も自転車やバイクなどの修理を見よう見まねでやっていた。子供のころから自分の手で何かを作ることが大好きな少年でした。それで自然にプレーよりもクラブ作りに大きな興味を抱くようになったのです」とウィットラムは回想する。

彼のバッテリーを使ったゴルフファンの多くが「ウィットラムは歴史に名を残すバッテリー職人だ」と高い評価と深い信頼を寄せる。今回は、なぜ彼がバッテリーにこだわったのかを探っていく。

【取材協力】マルマン ☎03・32972・9404